

広報まつかわ No.623

Matsukawa

Matsukawa town public relations magazine

7

2026



特集

夏だ!お祭りに行こう!!



令和8年は松川町町制施行70周年

特集

夏だ! お祭りに行こう!!

梅雨が明けると、いよいよ夏本番! 飯田下伊那でもいち早く開催される「フエスタぎおん in かみかたぎり」を皮切りに、松川町は心躍るお祭りシーズンへ突入します。

夜空に広がる花火を見上げたときのワクワク感や、家族と手を繋いで訪れた屋台の賑わい。地域の祭りでの温かな思い出は、かけがえのない宝物として、一人ひとりの心に深く刻まれていくはず。

しかし、それは決して当たり前の景色ではありません。地域の絆を育み、子どもたちの笑顔を守りたいと奔走する人々の想いが重なり、楽しい時間が生まれているのです。今回は、地域を愛し、祭りを支える2人の代表の方に想いを聞きました。

見慣れた風景の中にある特別な時間へ。この夏、大切な人と町のさまざまなお祭りへ出かけてみませんか。

あらい祇園祭

商店街に活気を子どもたちに夢を

祇園祭は、私も幼い頃から心待ちにしてきた特別な祭りです。昔は各通りから神輿が何基も出て競い合うなど、商店街に活気がありました。

時代とともに形は変わりましたが「皆に楽しんでもらい、子どもたちが夢を持つきっかけを作りたい」との願いは変わりません。

ステージ発表に加え、パトカーや自衛隊車両の展示、J-Rの展示など多様な

な仕事に触れられる企画も用意しています。主催が実行委員会形式へ移行して今年で3年目。一時は存続さえ危ぶまれましたが、形を変えてでも続けてこられたのは「祭りを絶やしてはいけない」という地域の熱い想いがあつたからこそです。現在は支会や区会、神社、商工会、マツカワたがやす会議、あらいにぎわいクリエイト部など多様な人が知

恵と力を合わせて祭りを作り上げています。さらに今年は500円から誰でも参加できるクラウドファンディングを始めました! 花火のラストを締めくくる「ナイアガラの滝」を長く楽しんでもらうためのものです。

祭りが終わり、ガラんとした通りを見ると「祇園口ス」に陥ることもありま。祭りをきつかけにその後も商店街へ足を運んでもらえれば、これほど嬉しいことはありません。ご家族やお友だちと最高の夏の思い出を作ってください!



あらい祇園祭実行委員長

よねやま ただゆき
米山 忠幸さん



終盤には名物の「大ナイアガラ」

2026年夏祭り日程



7月4日(土)

16:00~

フェスタぎおん in かみかたぎり

上片桐改善センター
上片桐町営グラウンド

7月18日(土)

13:30~昼打ちの部
19:30~夜打ちの部

あらい祇園祭

あらい商店街

7月25日(土)

17:00~

福与納涼祭

福与ふる里ふれあい館*

7月28日(火)

16:00~

清流苑まつり

まつかわの里
スポーツ前広場

8月14日(金)

17:00~

名子地区夏祭り盆踊り大会

松川中学校グラウンド

8月15日(土)

18:00~

上大島地区夏祭り

農村観光交流センター
みらい



名子地区公民館長

なご あきら
名子 晃さん

今年の夏祭りは例年より一日早い8月14日に開催します。土日避けるという意味での変更でしたが、結果的に他の祭りと重ならないことや、翌日に「二十歳の集い」を控えて帰省する若者にも顔を出してもらえるのではなかと期待しています。二十歳を迎えた皆さんを地域でも祝福したいと考えており、参加の呼びかけも積極的に進めています。

私たちが大切にしているのは、子どもたちの心に地域の原風景を作ることです。祭りで配る狐のお面や、皆で盆踊りを踊ったドキドキ感。そうした経験は子どもたちのやわらかな心に刻み込まれ、地域を思い出すきっかけや、生き方の土台になると信じています。

祭りの運営は、30代から40代の公民館部員を中心に一生懸命担ってくれています。

会場の中央に建てた櫓を囲んでさまざまなお店が出店し、老若男女が「まつかわOnDo!」や「龍峡小唄」に合わせて盆踊りを踊る。時代に合わせた進化も必要ですが、そんな変わりとした空気感に変えてはならないと思っています。肩の力を抜いて気楽に、火花が上がれば皆で空を見上げて一瞬を共有する。そんなすばらしい情景を、次の世代にも繋いでいきたいですね。

心に刻まれるふるさとの原風景

名子地区夏祭り盆踊り大会



櫓の上では子どもたちが踊り盛り上がる

国民健康保険・後期高齢者医療保険へ加入している皆さまへ

7月中旬から下旬にかけて、「資格確認書」「資格情報のお知らせ」をお送りします。届きましたら住所・氏名などをご確認ください。お手元に届く書類は大切な書類です。捨てたりせず、保管してください。

マイナ保険証を普段からお使いの方は、引き続きマイナ保険証をご利用ください。

国民健康保険 または 後期高齢者医療保険の加入者である

国民健康保険

↓

マイナ保険証を利用している

はい いいえ

↓




70歳以上である

はい いいえ

↓

令和7年7月
下旬に送付した
資格情報のお知らせ
を引き続き
お使いください。

↓

後期高齢者医療保険

↓

マイナ保険証を利用している

はい いいえ

↓

85歳以上である




はい いいえ

↓

マイナ保険証の利用状況
①過去1年間で6回以上
利用している
②概ね直近3か月以内に
利用している
①・②両方に該当する

はい いいえ

↓

それぞれ
こちらの
封筒で
届きます

「資格確認書」は 特定記録郵便、「資格情報のお知らせ」は 普通郵便 で送付します。

国民健康保険について
保健福祉課 保健予防係 ☎ 36-7034

後期高齢者医療保険について
保健福祉課 高齢者係 ☎ 36-7022

7月は「社会を明るくする運動」強調月間です

保健福祉課 福祉係
☎ 36-7022

「社会を明るくする運動～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

町では小中学生の皆さんに、犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えるきっかけにもらうため、保護司と更生保護女性会の皆さんが町内の小中学校を訪問します。

また、今年度も小中学生の皆さんを対象に作文コンテストを実施します。多くの方のご応募をお待ちしています。

昨年度の長野県作文コンテストにて中央小学校 5年*の清水葵さんの作品が「審査委員長特別賞」を受賞しました。ボランティア活動を通して感じた地域との絆を、素直な言葉で綴っています。その全文をご紹介します。

※受賞時の学年



一緒に過ごすのが一番

松川中央小学校 清水 葵

「失敗することは誰にでもあること」

こう言われると、当たり前だと思いかもしれませんが、世の中には一度失敗してしまうと、その後ずっとみんなから無視されたり、冷たくされたりし続ける人がいるという話を聞きました。例えば、何か悪いことをしてしまつて、警察にたいほされてしまつた人たちです。もちろん、悪いことをしていいわけではないけれど、一度失敗しただけでそのあとずっとみんなから冷たくされるのは、かわいそうだと思います。自分が万が一そうならしたら、もう生きていくのがいやになると思います。

その人がどんな人なのか、実際に会つてみたり、すごしてみたりしなないとわからないし会つてみて自分が嫌な気持ちにならなければ無視したり冷たくしたりするのはだめだと思います。

みんながうわさとか思い込みでその人を判断しない、そんな社会になると、いやな気持ちになつて悪いことをする人が少なくなり、みんなが安心して過ごせる社会になると思います。

私は、松川町の社会福祉協議会がやっている「あいむ」というボランティア活動に三年生の頃から参加しています。そこでは障がいのある人と一緒に、水族館に行つたり、カレーを作つたり、手話を勉強したりして一緒に色々な活動をしてきました。

最初は「障がい者の人と一緒に活動」と聞いて、少し不安で、怖い気持ちがありました。でも、いざ一緒に活動してみると、障がい者の人でも、できないことを一生懸命やりとげようとしていました。例えば、耳の聞こえない人から手話を教えてもらったことがあります。その時も、私達が覚えようとするのとおなじくらいか、それよりもっと一生懸命なくらいわかりやすく教えようとかがんばつてくれました。プリントとかも準備してくれたり、挨拶のやり方とかを何度も教えてくれました。

そして、一年も経てば障がいのある人、ない人の区別をつけずに、関係なく、あいむの活動をするのが楽しくなつてきました。不安とか、怖いとか、そういう気持ちにもぜんぜんならなくて、いつも次のあいむが楽しみな気持ちになりました。

だから、話は少しちがうかもしれないけど、どんな人でもいっしょにすごしてみることがとっても大事だと思つたし、そうすればその人の本当の性格とかがわかるんだと思つてきました。

あと、挑戦してうまくいかないことはだれにでもあると思います。挑戦して、うまくいかなかったとして、まわりの人がそれをきっかけにいじめたり、無視をしたり、冷たく態度をとるかもしれない。でも私はそれはちがうと思います。その人が考えていることががんばつていることがあると思います。

あいむで水族館に行つたとき、障がいのある人たちもまぎつて班を作つて一緒に歩いたり行動したりしました。その班に歩くのがゆつくりの人がいて、わたしたちの班は他の班に比べて遅くなつちやうことがありました。でも、その人は自分の力で歩きたくて、私達の班の人は誰も文句を言つたりせず、いっしょにゆつくり歩きました。水族館が終わつた時、その人は「遅くなつてごめんね」という感じのことを伝えてくれて、とつても楽しかつたと言っていました。わたしは、班のみんながその人が遅いことをバカにしたり無視したりしなかつたから、自分たちも楽しい水族館になつたと思います。だから私は、自分の決めつけとかでいじめたり無視したりしない方が良くないと思います。

人間はそれぞれ思うことが違うと思います。それを、まわりのうわさやイメージ、思い込みでかつてに判断するのは違うと思います。悪いと思うなら、実際に会つてすごしてみたりして判断するのが一番良いと思います。そして「挑戦するのは良いこと。誰にでも失敗はある」というのを忘れずにいてほしいです。みんなと同じ社会をすすし、みんなが自分の人生を送るので、悔いなく、一日、一日楽しく過ごしてほしいです。